

IV編 9章 直接基礎の設計

質問	回答	備考
<p>○支持力係数</p> <p>図-9.5.1 で示される支持力係数 N_γ は、どのようにして導出されているのか。</p>	<p>図-9.5.1 で示される、直接基礎底面地盤の極限鉛直支持力の特性値の算出式(式(9.5.5))の導出過程や支持力係数の近似式の詳細については、9章の末尾に参考文献としても記載されている、以下の参考資料をご参照ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建設省土木研究所：偏心載荷荷重に対する極限支持力計算法，土木研究所資料第 226 号，1966.12 ・建設省土木研究所：二次元傾斜荷重に対する地盤支持力の計算図表，土木研究所報告第 135 号，1969.8. ・(独)土木研究所：性能規定体系における直接基礎の安定照査に関する研究，土木研究所資料，第 4255 号，2014.3. 	<p>道示IV p.208～210 9.5.2(2)5 iii) の解説 (H30.2.28 公表)</p>

IV編 10章 杭基礎の設計

質問	回答	備考
<p>○場所打ち杭の杭先端の極限支持力度の特性値</p> <p>表-10.5.2 から場所打ち杭の杭先端の極限支持力度の特性値を定める際には、N 値はどの範囲の値を考えればよいか。</p>	<p>表-10.5.2 を適用するためには、8.3 に規定されるように長期的に安定して存在し、基礎を支持するための十分な地盤抵抗が得られる地層から選定した支持層に、杭先端を根入れする必要があります。</p> <p>上記を満足する場所打ち杭の杭先端の極限支持力度の特性値を表-10.5.2 から定める際に用いる N 値は、10.5.2 解説 (P244) にあるように、杭体先端から杭径の 3 倍下方までの範囲で定めます。その値の求め方は、文献 1) に記載されているように、単純平均として求める方法や面積から求める方法がありますが、両者の値は大差がないことから、単純平均としてよいです。</p> <p>なお、10.5.2 解説 (P244) に示されるように、杭先端から杭径の 3 倍下方までの範囲というのは、支持層として最低限確保する必要がある層厚を意味するものではありません。</p> <p>文献 1) 中谷昌一，白戸真大，横幕清：杭の軸方向の変形特性に関する研究，土木研究所資料，第 4139 号，2009.3.</p>	<p>道示IV p. 244～248</p> <p>10.5.2(2)2) の解説 (H30. 2. 28 公表)</p>